



NEWS

VOL.
144
2008・10月発行

待望の新校舎が完成 — 学びの発信基点として —



40数年間、歴史と尊き思い出を刻み、多くの生徒の学びを支えてきた佐伯区三宅の校舎。老朽化が進み、耐震性にも問題があるということで新校舎建設が数年前より検討されてきました。なぎさ公園小学校に隣接する佐伯区海老山南が新校地として決定されると、瞬間に新校舎建設への運びとなり、8月18日、新校舎「竣工式」を迎えることになりました。そして、引越作業や試験的登校を経て、9月8日に夏休み明けの全校集会を行った後、新校舎での授業がスタートしました。

これまでの校舎とはサイズも設備も周辺

環境もまったく異なる校舎。光が溢れ、風が薫り、緑に包まれた開放的な校舎。まさしく待ち望んでいた学び舎ではないでしょうか。これまで叶えられなかったことがこれからは叶えられそうな気がします。しかし、モノは扱う人によっていかようにも変化します。私たちの校舎も同様です。どれだけの想いをもってこの校舎に磨ぎをかけることができるか。教職員も生徒も共に、我が学び舎に想いを注いでいくことが新しい伝統を築くことにもなり、さまざまな学びの発信基点として末永く存続していくのです。

校長 白岩 博明



自学自習室



5m廊下



教室での授業風景



図書室



食堂にて



なぎさのグラウンドでの体育

新校舎完成祝賀会

9月22日(月)。前日の大雨から一転して晴天に恵まれたこの日、新校舎完成祝賀会が開かれました。各方面から200名近い皆様のご参列をいただくとともに、たくさんの祝辞をいただきました。新校舎を祝うハレルヤの大合唱で始まった本校音楽部によるミニコンサートでの喝采に続き、晴天に映えた新校舎の見学では、あちこちで感



嘆の声があがりました。引き続きサブアリーナでは、交換留学校であるニュージーランドのパサデナ中学校ウォルシュ校長の乾杯の御発声に続き、和やかで笑顔にあふれた楽しい記念パーティーが催されました。

CONTENTS

- 新校舎完成 ————— 1
- 高Ⅱ研修旅行 ————— 2・3
- 中2ニュージーランド交換留学 ——— 4
- 高Ⅰニュージーランド語学研修 ——— 4
- 中1校外学習 ————— 4
- キャンパスライフ ————— 5
- 秋読書のすすめ ————— 5
- 文化祭インフォメーション ——— 6
- 高校水泳部全国大会出場 ——— 6
- CLUB NEWS ————— 6

北海道 自然と生きる暮らし体験コース
平成20年7月27日(日)～8月1日(金)

晴天に恵まれ、蒸し暑い広島から離れて、北海道は肌寒いほどでした。途中、偶然バスの中からキツネと鹿を見つけたり、どこもかしこも牛の匂いがしたり。心地良い風が吹く森と平原と湖の傍で様々な体験ができました。えこりん村では北海道の大地で行われる自然との調和を考えた新たな取り組みを学び、アイヌ二風谷村ではアイヌの方々の生き方にこれからの地球と人との関わり方のヒントを得た思いでした。



初体験のダッチオープン、美味しくできました

また、ラフティング(急流下り)や溪流釣り、マウンテンバイクをして楽しみました。然別湖ナイトウォッチングでは人工の光が届かない森の中で、夜の闇に潜む動物たちの普段聴くことのない微かな鳴き声と確かな気配を感じました。長沼町ファームステイでは北海道の方々の優しさとおおらかさに触れました。この6日間で普段することのない様々な体験から、多くのものを得られました。



晴天に恵まれ、森の中をマウンテンバイクで

中学校の“修学旅行”とは全然違うということが、行ってはじめてはっきりと理解できました。まさに『自然体験コース』5泊6日、全てが自然にかこまれた毎日で、様々な自然の“顔”や、ふれあい方を知りました。自然は生きていて、更に人間たちは自然に生かされている。自然に感謝するというのがいかに大切なことなのかを学びました。

北海道 カヌー体験コース
平成20年7月27日(日)～8月1日(金)

日中の最高気温20℃ほど。広島の蒸し暑さを考えると、ここはまさに別天地。こんな道東の釧路を中心に、今年も北海道カヌーコースは実施されました。1日目は阿寒湖でカヌーの基本レッスン。初めて乗るカヌーに悪戦苦闘しながらもインストラクターの方々の丁寧な



釧路湿原をバックに

指導により、みるみる上達していきました。2・3日目が釧路湿原での川下り。ゆったりとした川の流りに身をまかせる者、ひたすら漕ぎすすんでいく者、速さを競いあう者、はしゃぎすぎて転覆する者、各自が思い思いの方法で北海道の大自然を満喫していたようでした。



カヌーの操作も上達しました

◎一人では何もできないけど、協力すればできるということのカヌーから学ぶことができた。
◎カヌーを通じて、他人との協調性、息を合わせることは大事だと思った。
◎広島では見ることでしかない広い平野に驚き、カヌーに乗っているときも周りは自然ばかりで、自然の雄大さを体感できた。

屋久島 エコプログラム体験コース
平成20年7月27日(日)～8月1日(金)

初日は、屋久杉自然館で屋久島の歴史や自然を学び、紀元杉を見学しました。2日目以降は、屋久島ネイティブビジョンによるエコ・スクールプログラムである、①白谷雲水峡トレッキング、②一人乗りカヤックによる安房川自然ウォッチング、③スノーケリングと木工クラブ体験を、3つのグループに分かれて日替わりで行いました。5日目は、地元の文化に触れる体験プログラムで、稲刈り作業のお手伝いをしたり、渓谷を散策したり、地元のお菓子である、ソーダ



地元の方とお菓子作り

菓子(ふくれ菓子)とかからん団子(よもぎもち)と一緒に調理したりしました。これらの体験を通して生徒たちは、人のあたたかさ、自然の大切さ、自然の尊さ・雄大さを感じ、自然との共存の意義を知ることができたようです。



迫力ある紀元杉に感動して

屋久島の森・海・人は全て美しく魅力的なものばかりだった。とにかく自然からエネルギーをたくさんもらえる。どこへ行っても楽しく、ゆったりとした時間の中でゆったりと研修旅行を行うことができた。もっと長くいたい!と絶対に思える場所が屋久島というところだ。一生で一度しかない研修旅行をこの屋久島で過ごすことができ本当によかった。

イギリス

語学研修と
世界の友人に
出会う旅

平成20年7月28日(月)~8月14日(木)

今年、29名がイギリス・サセックス州ブライトン郊外のハースにて「マナーコース」主催の語学研修に参加しました。ヨーロッパ各国をはじめ、アフリカ、西アジア、中国など多様な国から400名近くの十代が集まって、午前中は多彩な国籍構成のクラスで語学研修をし、午後からはスポーツなどのアクティビティをしました。また、週に2度ほどイングランド南部の史跡を訪ねるプログラムにも参加しました。



一週間もするとこうなる



食事時のコミュニケーション



やはり発言力が命

〔日本と異文化について〕

「こんなにも沢山の国の人達と交流することができていい経験になった。ナイジェリアの友達から始まって、フランス、スペイン、中国など様々な異文化を体験できた。」
「今回の旅のキーワードは『外から内』。他国の文化で疑問に思うこともたくさんあったが、彼らからは日本の文化も特殊だ。他の国の人と深く沢山知り合えば知り合うほど、自分達日本人の行動が不可解に思えてきた。積極的でない日本人はホントに損をしている。」
「結局、発言力が命だ。とりあえず試してみる。」

〔自分を見直す体験へ〕

「内気な自分が必死にいろんな人に話しかけた。自分の意見を持っていない自分に困った。」
「英語はもちろんのこと、自分の夢をかなえるために、他の勉強に対しても学習意欲が湧いてきた。やっとスタートラインに立てた気がした。」
「将来海外に留学するのもいいと思い始めた。かなり人見知りだった自分が自分から友達をつくりにいけるようになり、とても積極的になれた。自分を変えたいと思って参加したけど、だいぶ変わったと思う。」
「進路で悩んで結局自分がどうありたいのかわからないできたが、今回、自分の将来の道がここだ、と方向づけてくれた。」

マレーシア

サラワク
スタディー
ツアー

平成20年7月26日(土)~8月5日(火)

約4ヵ月前から20回の事前学習を行いました。何が本当の幸せか、今の日本は豊かなのか、豊かさの基準とは、など率直に意見を交換することで、日本の問題や優れた点を浮き彫りにしていきました。こうしてサラワク研修旅行に問題意識を持って臨む準備をしました。

マレーシアでは、油ヤシプランテーションの見学、合板工場の見学を通して日本とマレーシアのつながりと日本の繁栄の裏にある多くの人の働きに気づきました。ロングハウスでの生活ではイバンの人々と交流をはかりました。最初は緊張した面持ちであった生徒もイバンの人たちの笑顔や温かい心遣いにすぐうち解け、あっという間に家族の一員となっていました。旅行前は体力が心配されたメンバーでありましたが、イバンの人と一緒に共同台所の建設作業を行ったり、



イバンの人と一緒に
共同台所を建設



インナイ(お母さん)との食事はニヤマイ(おいしい)!



ロングボートでイバンの村へ

各自がいろいろテーマを持って積極的に調査したりしていました。

その後の振り返りミーティングでは、マレーシアに対する偏見を持っていたことが全然正しくなかったこと、人と人とのつながりを大切にしたいことなどの発表

を通して、それぞれの生徒がひとまわり大きくなった様子を感じることができました。この体験の理解をさらに深める事後学習が2月まであり、今回の研修旅行で学んだことをより多くの人々に伝えていきたいと考えています。

今回の旅で1番思ったことは「人とのつながり」、そして「命」です。ジャングルを歩いていても、ロングハウスにいてもそれらを感じた。ロングハウスには日本に無いものがたくさんあった。どこの部屋に入っても「ウダ マカイ?」と食事に誘われた。また、私たちのまわりにあるものや食べているもの、それらは全て自然の中で生きる尊い命だ。それらを大切にすることは、命を大切にすることだ。私は、この2つを大切に生きていきたい。

中2 ニュージーランド交換留学



パサデナ生たちと音楽の授業にて

7月27日(日)～8月12日(火)、ニュージーランドのオークランドにあるパサデナ中学校で19名の本校生徒が貴重な体

験をしました。5月にホームステイをしながら本校で共に過ごしたパサデナ生たちを中心に校内だけでなく、校外でも交流を深めました。校内では、異年齢が一緒になってグループで授業を受けたり、弁当には菓子類が含まれていたり、休み時間が長かったりと、日本の中学校とはかなり異なった学校生活を少し戸惑いながらも明るいパサデナ生たちと一緒に楽しく過ごしました。英会話はほとんどできないけれども、事前学習で練習したよさこいソーランの踊りや“ふるさと”の英訳版の歌を立

派に披露して教えたり、休み時間にスポーツを通して触れ合ったりして、交流を深めました。校外でも、ニュージーランドの異文化理解のために博物館を訪問したり、ホームステイ先で異なった生活環境の中で暮らしたり、小旅行に連れて行ってもらったりと、毎日何か新しい気付きをしながら過ごしました。約2週間という短い期間のなかで、パサデナ生やホストファミリーだけでなく多くの現地の人たちの温かさに触れることができた滞在となりました。

高I ニュージーランド語学研修

7月26日(土)から8月14日(木)の間、暑い日本を離れ、高校I年生31名がニュージーランド語学研修に行ってきました。約3週間ホームステイを体験しながら、ワイカト大学のパスウェイカレッジで語学研修を受けました。初めはホストファミリーとのコミュニケーションに戸惑っていた生徒もいましたが、勇気を出して英語を使うことで次第に自信が生まれ、日に日に生徒たちに笑顔が見られるようになりました。

ホストファミリーに“家族”として受け入れてもらい、英語を使う毎日の生活から学んだ3週間。時には言葉なしでも伝わる気持ち。英語をコミュニケーション手段

とした異文化の生活で、自己表現や異文化を受容する大切さを学び、「英語は、人と人が“相手への思い”を伝えるための“道具”である」ということに気が付いたようでした。



ポートフォリオのための調べ学習

大学内でアンケート調査

ホームステイ先では自分のことは自分でするように言われたので、朝ごはんや昼ごはんは自分で作っていました。また食器洗いなども自分ですることが多く、今まで頼りすぎていたことに気がきました。今回のことで、今までの自分の行動を省みることができました。 I年2組 花岡 麻由子

一番印象に残っているのは、マラエ訪問だ。それまで学校でかなり練習したソーラン節を、マオリの人々と一緒に踊ったときは、本当に楽しかった。文化が異なっているけど、この様なことを通して互いに楽しみ、わかりあえたような気がした。 I年4組 橋本 慎太郎

中1 校外学習

夏休み中の7月29日(火)～31日(木)・8月2日(土)～4日(月)、1年生237名は八千代キャンパスにおいて校外学習を行いました。

「森の村づくり」では屋根にする竹をのこぎりで切ったり、階段にするための石を集めたり、普段では体験しないような力仕事も体験し、汗を流しながら作りあげました。

「森の朝食会・森の晩餐会」では火起こしから生徒が手掛け、火の調節に悪戦苦闘しつつもあきらめることなく自分の仕事をやり遂げ、おいしい食事を作ることができました。

「森の展覧会」では「クラフト」、「ペイント」、

「草木染め」と3コースに分かれ、八千代キャンパス内にある木や草、石などを使い、思い思いの作品を作りあげました。

「銀河鉄道の夜」ではキャンパネルラ館を消灯し、真っ暗の中屋上に寝ころび、銀河鉄道の夜の朗読を聞きながら星空を眺めました。朗読係・演奏係・音楽係の趣向を凝らした演出で、すばらしい星空を眺めることができました。

普段と違う生活や、さまざまなプログラムに生徒たちの五感には刺激され、保護者ボランティアの方や八千代校舎のスタッフの方の力を借りて、多くのことを学んだ2泊3日の体験でした。



ご飯を炊くための竹はんごう作り

仲間とおいしい夕食をとったあと、やっぱり「銀河鉄道の夜」の時間になりました。空を見上げたら曇っていて、星が一つも見えなかったのも、とても悲しい気持ちになりました。ところが、だんだん雲がなくなって星がはっきり見えるようになってきました。私達の願いが届いたようでうれしかったです。私は先生のお話を聞きながら、星がとてきれいに見えたことに感動して涙が出ました。 I年6組 下瀬 美沙希

薪割りはずごく難しいものでした。手には豆ができそうになり、踏ん張っている足はガクガクし、暑くて汗がタラタラ流れ、途中で止めたくまりました。だけど、ふと周りを見ると、火起こしの人たちは熱いなか火を起こしており、食材係の人はきれいに食材を切っており、一緒に薪割りをしている人も頑張っていました。一人一人がみんなのために頑張っている姿を見て、自分も最後まで頑張ろうと思いました。 I年5組 宮前 椋



早稲田大学
国際教養学部3年
有原一正 (2005年度卒業)

〈早稲田大学の留学制度〉

私はアメリカ西海岸に位置するシアトルのワシントン大学で去年の9月からおよそ9ヶ月勉強していました。今回の留学は国際教養学部生にはほぼ必須の留学であり、国際教養学部とは、早稲田大学が新たに設置した国際化に対応するための学部です。ここでは授業の大半は英語で行われ、学生は2年の後半から3年の前半に留学することが求められます。しかし、通常の大学でありがちな休学して海外に行くのではなく、留学がカリキュラムに含まれているので、4

年間で卒業することが可能です。また、早稲田大学は120を超える世界中の大学と協定を結んでいるので、アメリカだけでなく色々な地域に行くことが可能です。私の友人などはフィンランドやスウェーデンなどに留学した人もいます。また、留学費用もプログラムによっては様々ですが、街角でたまたま見つけた留学エージェントよりも安価で済むものが多いです。すなわち、早稲田は留学という「制度」をきちんと確立しているということです。

〈留学体験〉

ワシントン大学では国際関係の授業を中心にとりました。具体的には東アジア情勢やエネルギー事情、アメリカの外交政策などの観点から勉強しました。内容を厳密に対象化し、それを仔細に研究したり、1週間で100ページを超える英文を読んでいく地道な研究でしたが、教授陣のユーモアにあふれる語り口により、楽しみながら学ぶことができました。

国際関係以外では市民社会について勉強し、実際にボランティアが必須な授業などもありました。その延長線上にインターンシップがありました。インターンシップ先を確保するために英語で就職活動に近いことから初めました。結局、3月の中頃から大学の事務所の一つに飛び込むこととなりました。その先での体験は言葉が分からないことと、初めて

のれっきとした職業体験であったことから、戸惑いの連続でしたが、インターンシップを終えた時は達成感がありました。

以上の経験から改めて思うのは、留学は非常に華やかな印象がありましたが、実際は苦難の連続だということです。慣れない英語を使って、時間通りに来ることのないバスに乗り、とんでもない量の食事が出てくるレストランで律儀に完食をして授業に行きます。そして、英語での授業は常に集中が必要で、時には発言や質問をすることが求められます。その上、ホームステイ先でも常に英語漬けです。英語を操り、アメリカ人と談笑する場面は華やかであり、多くの人の留学への憧れの的だと思いますが、その反面常に外国語を使い、向上することが求められるという現実面もあるでしょう。

〈留学を終えて〉

留学は常に勉強することが山のようにあり、外国語を使えない自分自身に直面し、あせることが多くあります。更に、時間は自らを追い立てるように流れていきます。その中でも、自分が向上することに私は何よりも喜びを感じました。ワシントン大学で受けた授業が糧になり、より強固な

考え方を身に付けることが出来ましたし、インターンシップは自分の将来を考えるきっかけになりました。今はこれから就職をして自分を高めていきたいと思っています。

秋読書のすすめ

読書の秋になりました。そこで今回はみなさんの進路や将来に役立つ本を紹介したいと思います。

『中学生の夢』・『高校生の夢』・『先生の夢』

日本ドリームプロジェクト編 (いろは出版)

「未来は、夢を持つことの素晴らしさを信じている人たちのものだ(エレノア・ルーズベルト)」
みなさんはこの学校で、どんな夢を持って毎日を過ごしていますか？



この本では、同じ世代の人はどんな夢を持って毎日を過ごしているのか、ちょっと年上の先輩はどんな夢を持って頑張っているのか、「夢を持って」と君らに言い続けている先生方自身はどんな夢を持って君らに向き合っているのか、日本全国の47人47通りの夢が語られています。
ばらばらめくってみるもよし、じっくり腰を据えて読んでみるもよし、進路に、夢に、人生に迷っている人には、必ず何か参考になる夢や言葉が語られている本です。 (樋川 裕治先生)

『不思議宇宙のトムキンス』

ジョージ・ガモフ/ラッセル・スタナード 著 青木薫 訳(白揚社)

著者のガモフは、量子論のトンネル効果によって原子核のα崩壊を説明したり、宇宙論の分野ではビッグバン説を提唱したりして20世紀の前半に華々しい活躍をした科学者です。物語の中で、主人公である平凡な銀行員のトムキンスが、相対論や量子論の不思議な世界を体験し、難しい?科学の理論をわかりやすく紹介してくれます。自分が生きている世界、時間とは何なのか、未来とは何なのかを真剣に考えてみたい人におすすめです。知的好奇心を刺激され自分の将来が変わるかもしれません。 (樋川 裕治先生)



『人文学へのいざない』

広島大学大学院文学研究科編 (溪水社)

文学や歴史を学んで、将来何の役に立つの?という人がいます。確かにその知識が仕事で直接役立つわけではありません。しかし仕事で本当に求められる能力は知識ではなく、探求力、分析力、応用力などです。人文学とは文学や歴史などを通じて、様々な事象を探求する力をつけるものだと考えれば、決して役に立たないなどはいえなはずです。文学部ってどうなの?と迷っている人がいたら、ぜひ本書を読んでみてください。 (岩見 信也先生)



第44回文化祭インフォメーション

テーマ

supernova - 超新星 -

今年は広島なぎさ中学校・高等学校として、そして新校舎で初めての記念すべき文化祭です。テーマの『supernova - 超新星-』には、文化祭に来られた方たちが眩しいくらい笑顔になってほしい。そして、心に第44回文化祭という光を残したいという想いがあります。文化祭まで日々準備してきたことを、当日最高の光として放ちましょう。



	日時	公開内容	場所
第1日目	11月14日(金) 9:00~12:15	校内発表会	本校体育館
第2日目	11月16日(日) 9:00~15:00	一般公開	本校校舎ならびに本校グラウンド

高校水泳部 全国大会出場おめでとう



平成20年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会

高校Ⅱ年4組 久留 琢丸君が6月からはじめた地区大会・県大会・中国大会を勝ち抜き、みごと男子50m自由形で全国大会に出場しました。

日程/平成20年8月17日(日)~20日(水)
場所/埼玉県川口市青木町公園総合運動場プール



今回、ずっと目標にしていたインターハイに出場できたことはいずれにしても、本番では自分の力が出せなかったのもとても残念でしたが、自分の目で決勝に進出できるタイムを見て、目標にすることができたのは良かったです。また、同じ広島の友人が3位になったので、それも刺激になりました。

来年は、水着などの影響でもっとレベルが高くなると思いますが、もう一度全国大会に行きたいです。しかし、出場するだけではもう楽しくないので、来年は決勝に残ることを目標にし、厳しい練習を重ねていきたいです。

CLUB NEWS

高校バドミントン部

●平成20年度広島県高等学校新人バドミントン大会広島地区予選大会
日時:平成20年9月20日(土)・21日(日)
成績:男子シングル
佐々木一貴(Ⅱ-3) ベスト32
男子ダブルス
佐々木一貴・杉原明通(Ⅱ-3) ベスト32
女子シングル
賀谷友紀(Ⅰ-1) ベスト16
中村有美(Ⅱ-4) ベスト32
女子シングル
松本彩香(Ⅱ-2)・賀谷友紀 ベスト16
橋岡杏子(Ⅱ-4)・中村有美 ベスト32
以上、県大会出場

高校硬式テニス部

●平成20年度 第61回 広島地区高校一年生テニス大会
日時:8月1日(金)・4日(月)
成績:男子シングルス 田鍋光平(Ⅰ-5) 優勝
小林慶太(Ⅰ-1) ベスト8
●平成20年度 第61回 広島県高等学校テニス新人大会(個人戦) 大会結果
日時:9月27日(土)・28日(日)
成績:男子シングルス 田鍋光平 ベスト8
小林慶太 ベスト16
男子ダブルス 田鍋・小林組 ベスト8

高校水泳部

●第56回中国高等学校選手権水泳競技大会
日時:平成20年7月25日(金)~7月27日(日)
成績:久留 琢丸(Ⅱ-4) 男子50m自由形 全国大会出場 第3位
男子100m自由形 第7位
原剛輝(Ⅱ-5) 男子200m背泳ぎ 第8位
久留・原・白石(Ⅱ-3)・石田(Ⅰ-1) 男子400mフリーリレー 第7位
●平成20年度第40回広島地区秋季水泳競技大会
日時:平成20年8月30日(土)・31日(日)
成績:男子総合7位
原剛輝 男子100m背泳ぎ 第2位
男子200m背泳ぎ 第1位
白石遊(Ⅱ-3) 男子100m平泳ぎ 第4位
男子200m平泳ぎ 第5位
石田拳一(Ⅰ-1) 男子50m自由形 第7位

高校ソフトテニス部

●広島地区高等学校ソフトテニス新人選手権大会
日時:平成20年8月8日(金)~10日(日)
成績:個人戦:吉田 将宏(Ⅱ-4)・松下 耕介(Ⅱ-1)ペア
3回戦突破によりベスト32 冬のインドア大会に出場

剣道部

●平成20年度県高校新人剣道大会(個人)
日時:平成20年8月31日(日)
成績:藤井 暉(Ⅰ-2) 3回戦まで進出
福島 峻太(Ⅰ-5) 2回戦まで進出

高校陸上部

●第117回広島地区高等学校陸上競技選手権大会
日時:8月4日(月)・5日(火)
成績:西本 諒祐(Ⅱ-4) 男子走り幅跳び 第6位
●第34回広島地区高等学校新人陸上競技選手権大会
日時:9月6日(水)・7日(木)
成績:西本 諒祐 男子走り幅跳び 第5位
●第47回広島県高等学校陸上競技選手権大会
日時:9月20日(水)・21日(木)
成績:西本 諒祐 男子走り幅跳び 第5位

中学サッカー部

●平成20年度広島市中学校総合体育大会サッカーの部佐伯区大会
日時:8月8日(金)・9日(土)・10日(日)・17日(日)・18日(月)・19日(火)
成績:佐伯区グループ 第5位

中学陸上部

●全日本中学校通信陸上競技広島県大会
日時:2008年7月12日(土)・13日(日)
成績:角山 巧(1-2) 1年男子100m 第2位
長谷川 貴大(3-1) 男子走り幅跳び 第1位
●広島県中学校陸上競技選手権大会
日時:2008年7月19日(土)・20日(日)
成績:角山 巧 1年男子100m 第3位
長谷川 貴大 男子走り幅跳び 第2位
●中国中学校陸上競技選手権大会
日時:2008年8月8日(金)・9日(土)
成績:角山 巧 1年男子100m 第7位
長谷川 貴大 男子走り幅跳び 第7位
●広島市総合体育大会陸上競技の部
日時:2008年8月25日(月)・26日(火)
成績:長谷川 貴大 男子100m 第3位
長谷川 貴大 男子走り幅跳び 第1位

渡邊 浩陽(2-3) 第6位
渡邊・長谷川・水津(2-3)・新谷(3-1) 4×100mリレー 第6位
角山 巧 1年男子200m 第1位
川添 大貴(1-5) 1年男子1500m 第8位
河野 貴大(1-5) 1年男子800m 第8位
難波 未菜(1-3) 1年女子200m 第7位
森本 陽子(1-5) 1年女子800m 第4位
三木 彩花(1-5) 1年女子100mハードル 第4位

●広島県総合体育大会陸上競技の部

日時:2008年9月27日(土)・28日(日)
成績:長谷川 貴大 男子走り幅跳び 第6位

中学硬式テニス同好会

●平成20年度広島市中学校総合体育大会テニスの部
日時:平成20年8月25日(月)・26日(火)
成績:男子団体 第3位

中学軟式野球部

●広島地区中学校軟式野球大会
平成20年度 広島地区中学校軟式野球大会
日時:平成20年7月5日(土)・12日(土)・19日(土)・20日(日)
成績:Aブロック 優勝

●平成20年度 広島地区私立中学校軟式野球大会
日時:平成20年8月3日(日)・4日(月)
成績:優勝

●第56回 広島市中学校総合体育大会 軟式野球の部(佐伯区)
日時:平成20年8月9日(土)・11日(月)・12日(火)
成績:第3位

●第56回 広島市中学校総合体育大会 軟式野球の部(広島市)
日時:平成20年8月24日(日)・25日(月)・26日(火)・27日(水)
成績:第3位

放送部

●第49回放送コンテスト広島地区大会
(第55回NHK杯全国放送コンテスト広島地区予選)
日時:平成20年6月20日(日)
成績:朗読部門 秦つかさ(Ⅱ-2) 入賞